

事 務 連 絡  
平成 26 年 3 月 25 日

各都道府県衛生主管部（局）薬務主管課 御中

厚生労働省医薬食品局審査管理課

第十六改正日本薬局方正誤表の送付について（その 4）

第十六改正日本薬局方（平成 23 年厚生労働省告示第 65 号）につきまして、一部に誤植等がありましたので別紙のとおり正誤表を送付いたします。

第十六改正日本薬局方正誤表 (その4)

1. 一般試験法

該当箇所	頁	行	正	誤
9.41 試薬・試液 キニノーゲン	174 左	↑ 8	$= R_f \times 0.96$ ・・・クロホルム/エタノール (95) 混液 (9:1) に溶かし, 正確に 250mL とし 試料溶液とす。この液につき, 薄層クロマトグラフィ (2.03) により試験を行う。試料溶液 10 $\mu$ L を薄層クロマトグラフィ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロホルム/アセトン/酢酸(100)混液(7:2:1)を展開溶媒として約 10cm 展開した後, 薄層板を風乾する。更に 120°C で 30 分間乾燥後, 直ちにリンモリブデン酸 n 水和物のエタノール(95)溶液(1→5)を均等に噴霧し, 120°C で 2~3 分間加熱するとき, $R_f$ 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。	$= R_f \times 0.0096$ ・・・クロホルム/エタノール (95) 混液 (9:1) に溶かし, 正確に 250mL とした液 10 $\mu$ L につき, 「ウルソデオキシコール酸」の純度試験(4)を準用し, 試験を行うとき, $R_f$ 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。
9.41 試薬・試液 ケノデオキシコール酸, 薄層クロマトグラフィ用	181 右	↓ 12	・・・アセトンに溶かし, 正確に 250mL とし 試料溶液とする。この液につき, 薄層クロマトグラフィ (2.03) により試験を行う。試料溶液 10 $\mu$ L を薄層クロマトグラフィ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロホルム/アセトン/酢酸(100)混液(7:2:1)を展開溶媒として約 10cm 展開した後, 薄層板を風乾する。更に 120°C で 30 分間乾燥後, 直ちにリンモリブデン酸 n 水和物のエタノール(95)溶液(1→5)を均等に噴霧し, 120°C で 2~3 分間加熱するとき, $R_f$ 値約 0.4 の主スポット以外のスポットを認めない。	・・・アセトンに溶かし, 正確に 250mL とした液 10 $\mu$ L につき, 「ウルソデオキシコール酸」の純度試験(4)を準用し, 試験を行うとき, $R_f$ 値約 0.1 の主スポット以外のスポットを認めない。
9.41 試薬・試液 コール酸, 薄層クロマトグラフィ用	183 右	↑ 9	・・・アセトンに溶かし, 正確に 250mL とし 試料溶液とする。この液につき, 薄層クロマトグラフィ (2.03) により試験を行う。試料溶液 10 $\mu$ L を薄層クロマトグラフィ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロホルム/アセトン/酢酸(100)混液(7:2:1)を展開溶媒として約 10cm 展開した後, 薄層板を風乾する。更に 120°C で 30 分間乾燥後, 直ちにリンモリブデン酸 n 水和物のエタノール(95)溶液(1→5)を均等に噴霧し, 120°C で 2~3 分間加熱するとき, $R_f$ 値約 0.1 の主スポット以外のスポットを認めない。	

2. 医薬品各条

該当箇所	頁	行	正	誤
ピリドキシン塩酸塩	1098 左	↓ 18	炭酸ナトリウムの薄めたエタノール (99.5)(3→10)溶液	炭酸ナトリウムの薄めたエタノール(3→10)溶液